

## 景気の現状と今後の見通しは改善するも、先行き懸念

鈴鹿商工会議所  
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成29年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、前回調査(平成28年7月～12月期)と比較すると、景気の現状と今後の見通しが改善。景況は持ち直しの兆しがあるものの、先行きは不透明な状況が続いている結果となった。

全体DI値において、前期調査時に比べ、現状DI値は7.7ポイント、見通しDI値は2.1ポイントの改善となった。業種別のDI値を見ると、卸売業と建設業は横ばい、製造業と小売業、飲食業、サービス業では改善が見られた。卸売業では、人手不足や運送費の増加の価格転嫁が難しいことが影響したと思われる。

政府の推進している景気浮揚策の効果が地方の中小企業・小規模事業者に少しずつ波及しつつあり、景況は持ち直しの兆しが見られるものと思われる。ただし、競争激化や消費者の低価格志向、原材料の価格上昇分の価格転嫁など先行きへの懸念材料があるため、今後の見通しは横ばいとなるものと推察される。

(対象 1,100社 回答企業 390社、回答率 35.5%)

### DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

#### ●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は19.0%(前回17.5%:前年同期16.3%)、「やや悪い」「悪い」は37.9%(前回44.1%:前年同期45.6%)となった。

景気動向を示すDI値は、△18.9(前回△26.6:前年同期△29.3)と前回より7.7ポイント、前年同期より10.4ポイント改善している。

業種別では、製造業DI値△4.3(前回△20.5:前年同期△13.1)、卸売業DI値△64.3(前回△63.7:前年同期△26.9)、小売業DI値△52.4(前回△60.4:前年同期△65.3)、建設業DI値△10.5(前回△11.4:前年同期△15.4)、飲食業DI値△10.7(前年△26.7:前年同期△43.5)、サービス業DI値△23.4(前回△35.4:前年同期△25.4)となった。

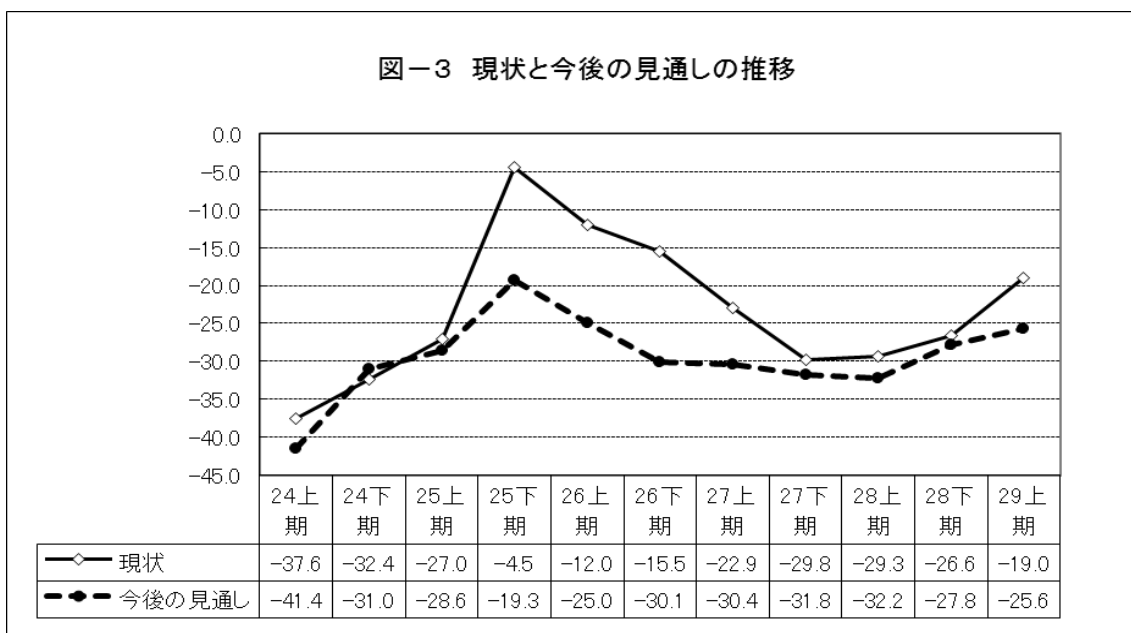
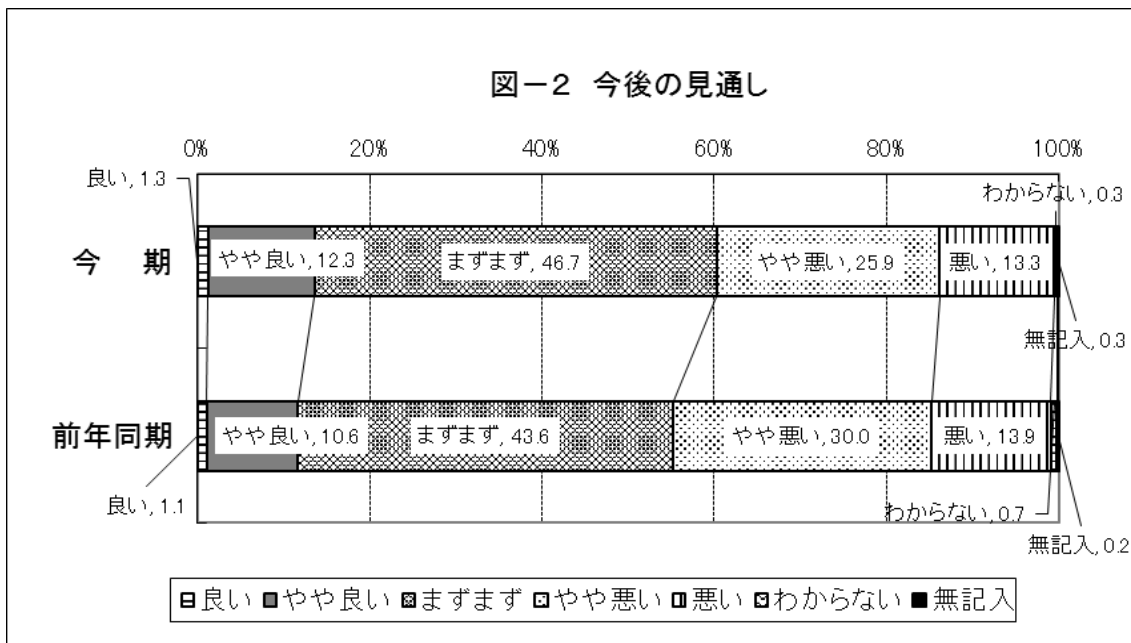
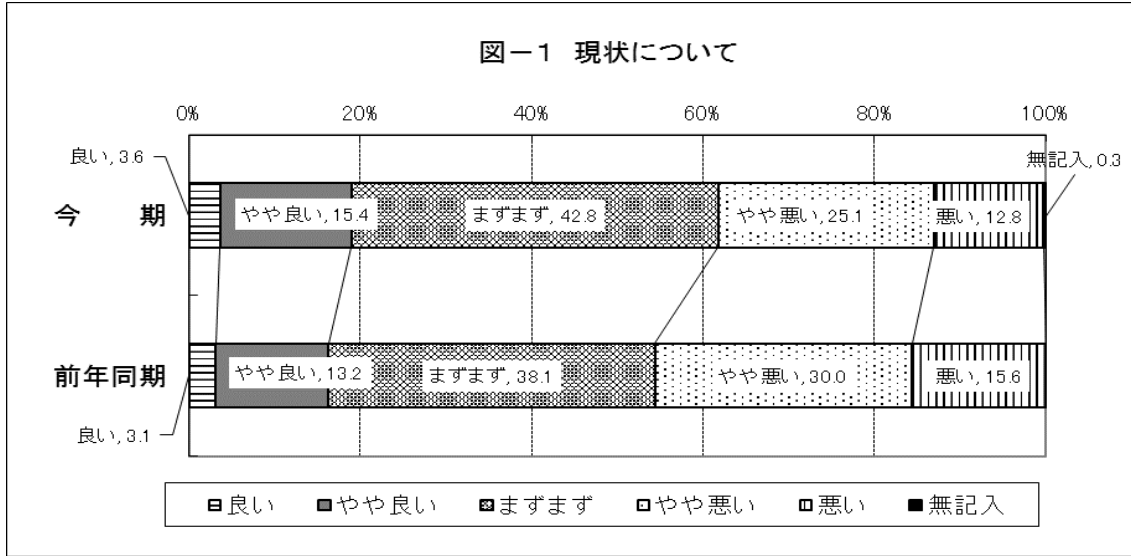
#### ●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、13.6%(前回11.5%:前年同期11.7%)、「やや悪い」「悪い」は39.2%(前回39.2%:前年同期43.9%)となった。

DI値は、△25.6(前回△27.7:前年同期△32.2)と前回より2.1ポイント、前年同期より6.6ポイント改善している。

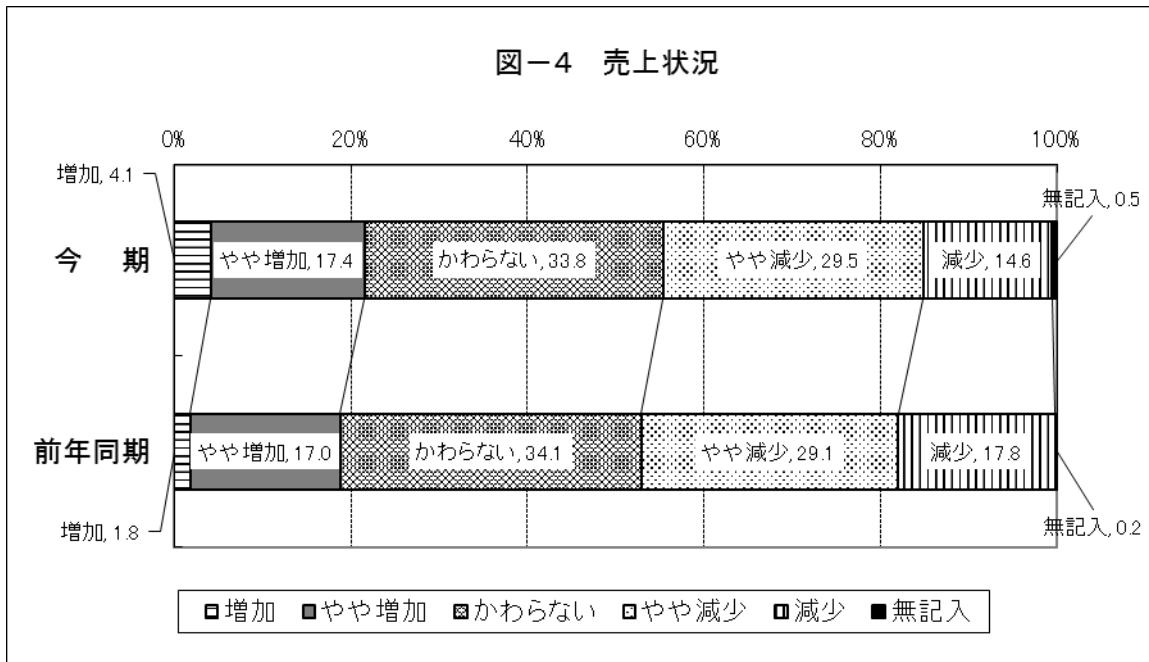
業種別では、製造業DI値△9.4(前回△19.3:前年同期△24.2)、卸売業DI値△64.3(前回△36.4:前年同期△27.0)、小売業DI値△45.9(前回△56.6:前年同期

△65.5)、建設業 DI 値△26.9（前回△24.7：前年同期△22.7）、飲食業 DI 値△17.8（前年△40.0：前年同期△39.1）、サービス業 DI 値△26.6（前回△20.8：前年同期△24.0）となった。



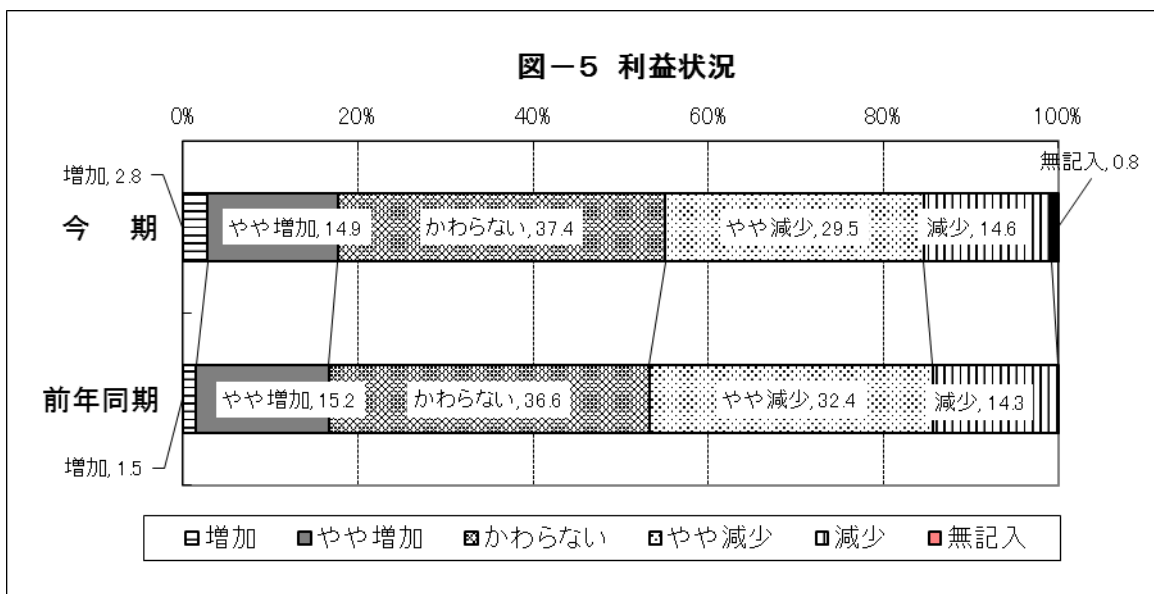
●売上状況について (図-4 参照)

「増加」「やや増加」は 21.5% (前回 22.9% : 前年同期 18.8%)、「やや減少」「減少」は 44.1% (前回 44.4% : 前年同期 46.9%) となった。DI 値は△22.6 (前回△21.5 : 前年同期△28.1) と前回より 1.1 ポイント悪化、前年同期より 5.5 ポイント改善となった。



●利益状況について (図-5 参照)

「増加」「やや増加」は 17.7% (前回 18.9% : 前年同期 16.7%)、「やや減少」「減少」は 44.1% (前回 45.5% : 前年同期 46.7%) となった。DI 値は△26.4 (前回△26.6 : 前年同期△30.0) と前回と比べ、ほぼ横ばい、前年同期より 3.6 ポイント改善している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (36.8)	人材育成 (31.6)	人手不足 (30.5)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (78.6)	競争の激化 (57.1)	設備店舗の狭小老朽化、人手不足 製品・商品単価の下落、人件費の増加 (14.3)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (60.7)	競争の激化 (31.1)	設備店舗の狭小老朽化 (27.9)
	建設業	人手不足 (53.0)	売上・受注の停滞減少 (42.6)	人材育成 (33.0)
	飲食業	原材料高及び不足 (39.3)	設備店舗の狭小老朽化 (35.7)	売上・受注の停滞減少 (28.6)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (35.0)	競争激化 (25.0)	設備店舗の狭小老朽化 (21.7)
	交通運輸業	人手不足 人件費以外の経費増加 (66.7)	売上・受注の停滞減少 人材育成 (33.3)	
	その他	人手不足 (28.6)	人件費の増加 競争激化 (21.4)	設備店舗の狭小老朽化、人材育成 売上・受注の停滞減少 (14.3)
総合		売上・受注の停滞減少 (42.1)	人手不足 (32.6)	競争激化 (23.6)
前年同期		売上・受注の停滞減少 (48.7)	人手不足 (27.3)	人材育成 (26.4)

## 地場産業—自動車関連

### ●現状の業況と今後の業況見通しについて

#### a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 31.5% (前回 14.3% : 前年同期 28.1%)、「やや悪い」「悪い」は 34.3% (前回 42.9% : 前年同期 50.1%) となった。DI 値は $\Delta 2.8$  (前回 $\Delta 28.6$  : 前年同期 $\Delta 22.0$ ) と前回より 25.8 ポイント、前年同期より 19.2 ポイント改善している。

#### b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 22.9% (前回 17.9% : 前年同期 15.6%)、「やや悪い」「悪い」は 28.6% (前回 35.7% : 前年同期 40.7%) となった。DI 値は $\Delta 5.7$  (前回 $\Delta 17.8$  : 前年同期 $\Delta 25.1$ ) 前回より 12.1 ポイント、前年同期より 19.4 ポイント改善している。

### ●売上状況と今後の見通しについて

#### a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 34.3% (前回 32.1% : 前年同期 25.0%)、「やや減少」「減少」は 37.1% (前回 35.8% : 前年同期 46.9%) となった。DI 値は $\Delta 2.8$  (前回 $\Delta 3.7$  : 前年同期 $\Delta 21.9$ ) 前回と比べ、ほぼ横ばい、前年同期より 19.1 ポイント改善している。

#### b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 22.9% (前回 25.0% : 前年同期 18.7%)、「やや減少」「減少」は 22.9% (前回 32.2% : 前年同期 53.2%) となった。DI 値は $\Delta 0.0$  (前回 $\Delta 7.2$  : 前年同期 $\Delta 34.5$ ) 前回より 7.2 ポイント、前年同期より 34.5 ポイント改善となった。

### ●利益状況について

「増加」「やや増加」は 28.6% (前回 14.3% : 前年同期 18.8%)、「やや減少」「減少」は 34.3% (前回 50.0% : 前年同期 46.9%) となった。DI 値は $\Delta 5.7$  (前回 $\Delta 35.7$  : 前年同期 $\Delta 28.1$ ) 前回より 30.0 ポイント、前年同期より 22.4 ポイント改善している。

### ■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7